

## 利用者の求めるユニバーサルビーチのあり方に関する基礎的研究

—大洗サンビーチ, 若狭和田海水浴場, 須磨海水浴場を対象として—

Basic study on way of the universal beach that the user demands

- For Oarai Sun Beach, Wakasa Wada Beach, Suma Beach -

○西島航太<sup>1</sup>, 山本和清<sup>2</sup>, 宮崎渉<sup>3</sup>

\*Kouta Nishijima<sup>1</sup>, Kazukiyo Yamamoto<sup>2</sup>, Wataru Miyazaki<sup>3</sup>

Abstract: In this study, I compare the maintenance that the way and the user of the universal beach in the future when a manager thinks demand for "Oarai sun beach" "Wada, Wakasa beach" "Suma beach" and am intended that anyone really clarifies the way of the universal beach that relief, security can use. As a result, according to a user, an opinion to lack a number was frequent in the present maintenance. From this, it was revealed that most of users felt that the maintenance situation was insufficient. I establish the place hearing the opinion of the user, and it will be thought that it is important to grope for the way of the universal beach from many viewpoints by taking it in positively in future.

### 1. 研究背景

我が国の高齢者人口は、平成 30 年 4 月の時点で 3537 万人に推移し、総人口に占める割合は 28%と過去最高の割合となった。また、井上らの「高齢者の海岸利用、特に海水浴場に関する意識調査」によると、高齢者の多くは海岸に対し、強い関心を抱いていることが明らかにされているが、海水浴場の現状の整備に対しては満足していないことも述べられている。このような状況の中、近年では海水浴場のユニバーサルビーチへの取り組みが進んでおり、現在では「茨城県の大洗サンビーチ」「福井県の若狭和田海水浴場」「兵庫県の須磨海水浴場」の 3 つの海水浴場がユニバーサルビーチとして整備を進め、老若男女、障がいを問わず誰もが安心・安全に利用することのできる海水浴場を目指している。しかし、ユニバーサルビーチは整備等の定義付けがされていないため、各海水浴場によって整備状況が異なる。また、現状の整備が海水浴場を利用する人の求める整備と一致しているかが不明である点が問題点として挙げられる。

### 2. 研究目的

本研究では、「大洗サンビーチ」「若狭和田海水浴場」「須磨海水浴場」の 3 つの海水浴場の管理者、また周辺住民（健常者・高齢者・車いす利用者）を対象として、海水浴場の現状の整備、また今後整備を検討しているもの等を把握する。また、海水浴場を利用する人の求める整備について調査することにより、それらを比較し、誰もが安心・安全に利用することの出来るユニバーサルビーチの在り方を明確化するための一助となる知見を得ることを目的とする。

### 3. 研究方法

#### 3.1 調査対象地

調査対象地は、ユニバーサルビーチとして整備をしている、もしくは整備を進めている海水浴場として茨城県東茨城郡の大洗サンビーチ、福井県大飯郡の若狭和田海水浴場、兵庫県神戸市の須磨海水浴場の 3 つを対象とする。

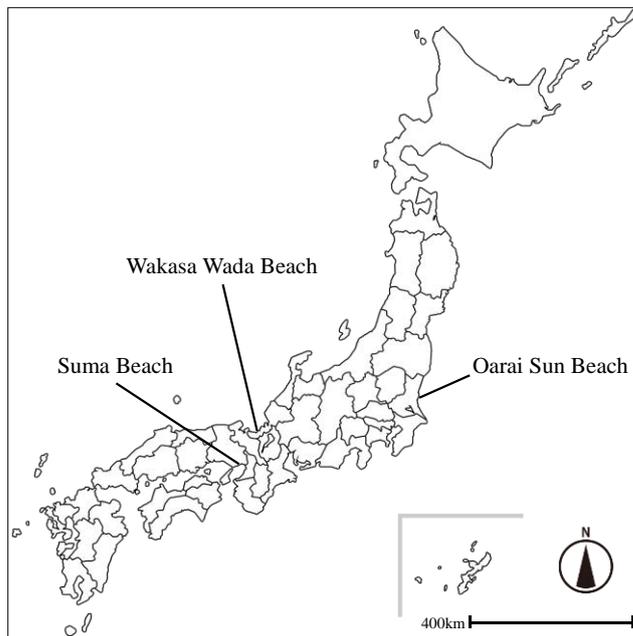


Figure 1. Oarai Sun Beach, Wakasa Wada Beach, Suma Beach

#### 3.2 調査方法

本研究では、大洗サンビーチの管理者と周辺に住む健常者・高齢者・車いす利用者に対して、ユニバーサルビーチに関するアンケート調査を行った。また、海水浴場におけるトイレやシャワー、休憩所といった整備の状況を現地踏査により把握した。アンケート概要

を Table 1 に示す。今後、若狭和田海水浴場と須磨海水浴場に対しても同様の調査を行う予定である。

**Table 1. Survey Overview**

Survey area	Oarai Sun Beach	
Those surveyed	Manager of the beach	Neighboring inhabitants
Research methods	Questionnaire survey, Field survey	
Investigation period	From September 7 to 8, 2018	
Investigation	The prospects of the future universal beach, Maintenance to demand, Grasp of the maintenance situation	
Recovery results	1/1(100%)	40/40(100%)

## 5. 調査結果及び考察

### 5.1 管理者に対するアンケート調査結果及び考察

管理者として、大洗サンビーチにて福祉活動やビーチパトロールといった活動を行い、ユニバーサルビーチを運営している「大洗サーフ・ライフセービング・クラブ」から回答を得ることが出来た。

結果として、管理者の視点から見てユニバーサルビーチに最も必要なことは「車いす利用者が波打ち際まで行くための方法を確保すること」という回答を得た。これはランディーズを使用することで解決することができるが、ランディーズを使用していない場合でも波打ち際まで行くことが出来るように、ビーチマットを敷くといった、アクセス面の整備が必要であると考えられる。また、「管理者と利用者のコミュニケーションが大事」という回答も得た。ユニバーサルビーチであるためには、誰もが不自由なく利用出来る場所であるべきではない。そのためには、訪れた人から意見を聞き、それを基にさらに良い場所へと改善していくことが重要だと考えられる。

### 5.2 周辺住民に対するアンケート調査結果及び考察

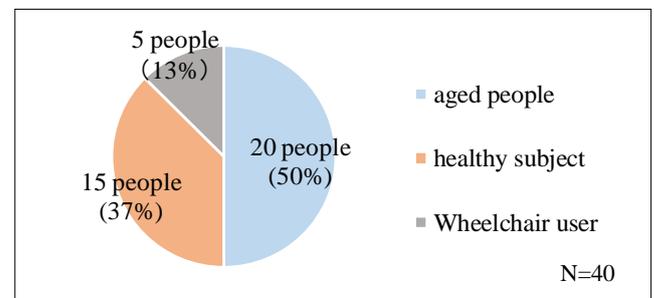
アンケート調査の結果、健常者 15 人、高齢者 20 人、車いす利用者 5 人の計 40 人から回答を得ることが出来た (Figure 2)。

利用者の視点から、ユニバーサルビーチとしてあった方が良いと思う整備をアンケート調査した結果、健常者からは「日陰のある休憩所が欲しい」と回答した人数が 15 人中 10 人(67%)と最も多かった。これは、老若男女、障がい問わず、また子供を伴った利用者でも安心して利用する為に必要な設備である。しかし、大洗サンビーチでは、日陰のある休憩所が 16ヶ所あるにも関わらず、休憩所をさらに増やしてほしいという意見があった。これは海水浴場の広さに対して休憩所の数が少なく、混雑する夏季には休憩所を利用することが出来ないため、海水浴場の規模に応じた適切な数の休憩所を確保することが必要だと考えられる。

次に、高齢者から得た回答の結果では、ユニバーサルビーチに求める設備として最も多かったのは、健常者と同様に「休憩所」で回答数は 20 人中 16 人(80%)

であった。2 番目に回答数が多かったのは、20 人中 13 人(65%)が回答したトイレとシャワーであった。現在、大洗サンビーチにはトイレとシャワーが 4 つずつ整備されており、夏季は仮設トイレが 8 つ設置されるが、大洗サンビーチは砂浜の長さが 1300m もある大きな海水浴場であるため、トイレやシャワーまでの距離が遠いと感じる人が多いと考えられる。

また、車いす利用者から得た回答によると、5 人全員が波打ち際まで車いすで移動するためのアクセス路の整備を求めていることが分かった。砂浜が広く波打ち際までの距離が長い大洗サンビーチでは、車いす利用者が波打ち際まで移動するのは困難である。そのため、ランディーズを借りることの出来ない夏季以外の時期では、車いす利用者は砂浜を利用することを諦めている状況だということ把握することが出来た。



**Figure 2. Subjects of survey person breakdown**

## 6. まとめ

調査結果より、大洗サンビーチにおいては、管理者側からみた今後のユニバーサルビーチのあり方と利用者側の求める整備に大きな差異はなかった。しかし、現在整備されているものでも、「シャワーや休憩所の数をさらに増やして欲しい」といった意見もあり、利用者からすると不十分であると感じるものが多いことが明らかになった。このような意見も含め、海水浴場を誰もが安心・安全に利用することが出来るような場所にするためには、利用者が実際に安心して利用出来るのか、また障がいを持った人でも利用したいと思える場所なのかを考慮して、意見を取り入れながら整備を進めていくことが重要だと考えられる。

今後、若狭和田海水浴場と須磨海水浴場に対しても同様の調査を行い、さらに詳細に研究を進めていく予定である。

## 7. 参考文献

- 総務省統計局：平成 30 年 4 月人口推計  
URL : <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.html>, 2018 年 9 月 20 日
- 井上雅夫ほか 4 名：「高齢者の海岸利用、特に海水浴場に関する意識調査」, 海岸工学論文集, 第 47 巻, pp. 1301-1305, 2000 年
- 井上雅夫ほか 2 名：「海水浴場のバリアフリーに関する現地調査—ユニバーサルビーチの創造を目指して—」, 海岸工学論文集, 第 48 巻, pp. 1341-1345, 2001 年
- OARAI SURF LIFE SAVING CLUB : クラブ概要  
URL : [http://elnino.jp/?page\\_id=101](http://elnino.jp/?page_id=101), 2018 年
- 大洗町観光情報：ユニバーサルビーチとは  
URL : [http://www.town.oarai.lg.jp/viewer/genre3-238\\_6.html](http://www.town.oarai.lg.jp/viewer/genre3-238_6.html), 2014 年